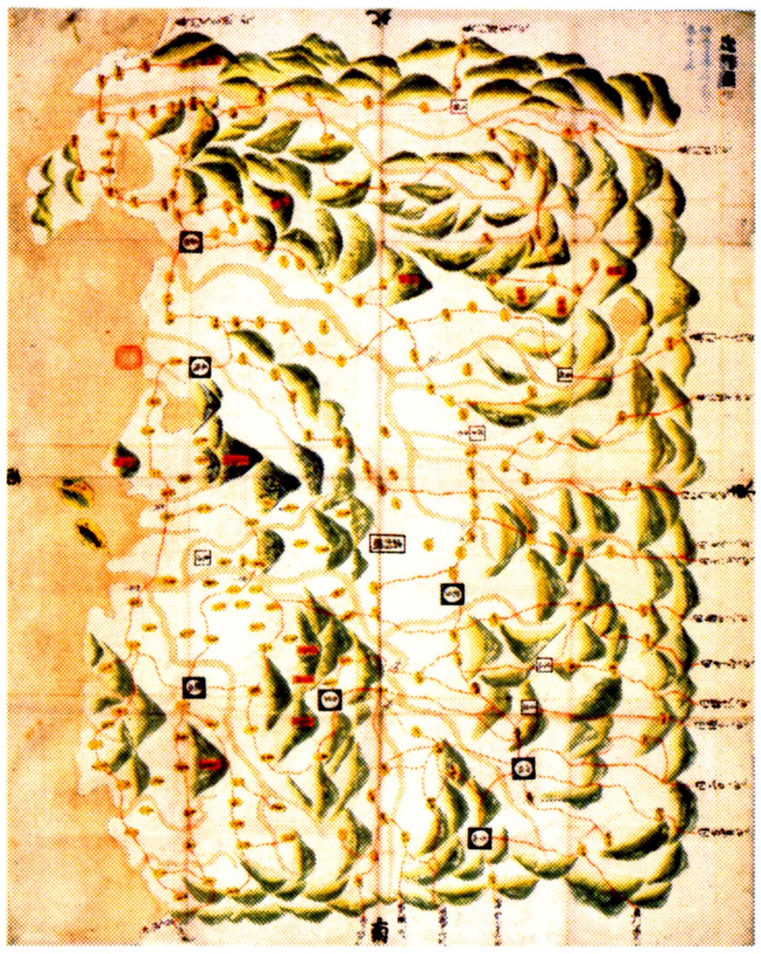
古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
古文書班
２００５．５
第２号

ミニ展示

『日本六十余州国々切絵図の世界』

前期　５月３１日（火）～
　　７月２２日（金）
後期　１２月６日（火）～
　　平成１８年２月１７日（金）
場所：当館２階　特別展示室



今年、平成十七年（二〇〇五）四月一日、秋田県立図書館「古文書班」は秋田県公文書館に再移管されました。これにより、秋田県公文書館は、明治四年（一八七一）以降の秋田県庁の行政文書を扱う「公文書班」とそれ以前の秋田藩関係の文書等を扱う「古文書班」が一体となって再スタートを切りました。そこで、これを機会に秋田県公文書館で所蔵する資料を皆様にご紹介したいと思い、ミニ展示「日本六十余州国々切絵図の世界」を開催することにいたしました。

当館所蔵の「日本六十余州国々切絵図」は、江戸時代初期の寛永十年（一六三三）に徳川幕府が藩情監察のため全国に派遣した「巡見使」によって集められた諸国の国絵図を、各大名が写したものと考えられており、秋田藩佐竹家において もこれらの国絵図を模写して家蔵史料として伝来していたと考えられます。

絵図の構成は松前と琉球をのぞく全国六十八国分からなっておりますが、六十八国分すべての絵図を一括して保存しているのは、全国でも山口県文書館と当館の二館のみといわれていますし、当館所蔵の絵図には備前国（現在の岡山県）の絵図が二枚あり、合わせて六十九枚となっております。また、他館所蔵絵図に比べて彩色も豊かであることから、質・量共に全国的に見てもたいへん貴重な史料であるといえます。

絵図を見ると中央部に国名が書かれており、どこの国の国絵図であるかがわかります。そして、村々は小判形で黄色にぬりつぶした枠内に村名のみが記されていて、山地は黄緑色の山模様を鳥瞰図風に描き、海・川・湖などは黄土色で薄く着色しています。また、大名の居城は四角の中に丸を描き、その中に城名を記しているなど、統一した表現様式で描かれているといった特徴があります。

今回の展示では、秋田県および佐竹氏と関係の深い出羽国（現在の秋田県・山形県）と陸奥国（現在の青森県・岩手県・宮城県・福島県）と常陸国（現在の茨城県）の三枚の国絵図を常設とし、他は四週間を目途に展示替えをしながら、順次六十九枚の国絵図を紹介していきたいと考えておりますので、是非ともご覧いただきたいと思っております。（伊藤成孝）

お知らせ

今年度の古文書解読講座の日程が決まりました。

古文書解読基礎講座　―初心者向き

＊第１期と第２期は同じ内容です。　（担当：菊池）

◇第１期（全３回）：７月２３日（土）/８月６日（土）/８月２０日（土）

◇第２期（全３回）：８月２７日（土）/９月１０日（土）/９月２４日（土）

古文書解読専修講座　―上級者向き

◇第１回：７月２９日（金）　（担当：畑中、嵯峨）

◇第２回：９月２２日（木）　（担当：伊藤、加藤）

◇第３回：１１月２２日（火）　（担当：後藤、越中）

＊申し込み等詳しい内容は、後日発表いたしますので、掲示板・新聞等をご覧ください。

古文書こぼれ話

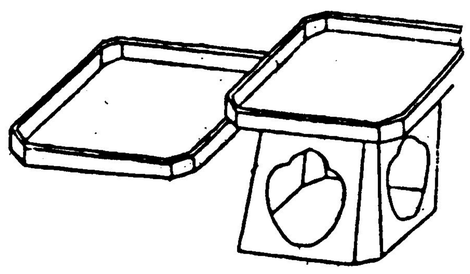
古文書を読み解くときに、読み方・書き方で迷うことがあります。例えば、巳（シ・み）已（イ・すでに）己（キ・おのれ・つちのと・コ）はその一つで、読むことは出来ても、これを書く時に誤りなく書くとなると自信を失う人もいます。文字の書き誤りで相手に誤りを伝えるので、慎重になります。

また、「くずし字」を読むときに、木（きへん）の文字か扌（てへん）の文字か読みに迷うことがしばしばあります。例えば、捌か栁か迷う「渋江和光日記　文政八年（一八二五）七月十四日」の条に

と述べられています。

（和光日記【五】Ｐ四六二）

これを「討死之面々へ霊膳捌なり」と翻刻されていますが、これは、校正の誤りでありますので、お詫び致します。捌・栁何れも使われている文字で、捌は「さばく」などと読み現在使われています。栁は「へぎ」（正字は榧）と読み実物は平素あまり見ることがないので、この文字はあまり使われなくなってきています。このように江戸時代の頃まで使われていた物・ことば・文字が、現在では使われなくなってしまったものも多いので、解読にも苦労を伴うことが多いのです。　（越中正一）



↑三方（さんぼう）

↑栁（へぎ）

＊出典「江戸萬物事典―絵でみる江戸時代より」（芙蓉書房出版）

〈編集後記〉

「古文書倶楽部」第一号は、お陰様で大変好評でした。五月末からのミニ展示では、迫力ある大きな絵図が見られる良い機会ですので、ぜひ足をお運びください。　（内藤）